

氏名： 浅田 徹 (ASADA Toru)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 文学修士
職名： 准教授
専門分野： 日本中世文学、特に和歌・連歌
E-mail： asada.toru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

和歌／歌学史／国語学史／日本中世文学／連歌

◆主要業績

総数（12）件

- ・蔵山集（版本） 翻刻と解題（上方文藝研究会『上方文藝研究』4号、2007・5）
- ・藤原為家の毎日一首について（上）—その伝存と原態—（お茶の水女子大学国語国文学会『国文』108号、2007・12、p12～p26）
- ・旋頭歌その後—失われた調べ—（久保木哲夫編『古筆と和歌』、2008・1、笠間書院刊、p230～p246）
- ・表層の秘義—入木道伝書を読む試み—（早稲田大学国文学会『国文学研究』153・154合併号、2008・3）
- ・翻刻 尊経閣文庫蔵『古今集中本歌証歌』（兎恵著）（『お茶の水女子大学人文科学研究』4巻、2008・3、p29～p40）

◆研究内容 / Research Pursuits

以下のようなテーマの論文を刊行した。

百人一首の享受史、上代から中古にかけての音数律の変容の一側面、古今和歌集の享受史、藤原定家の歌集書写の書記論的研究、藤原為家の毎日人知れず詠み続けた膨大な数の和歌について、冷泉家所蔵の鎌倉後期歌人の家集類（重要文化財）の写真版に対する解題、室町期古今伝授史の重要人物である兎恵の著作の活字翻刻、書道の家の者が和歌を書く際の故実について、江戸時代後期上方における堂上系歌人たちの動向を知る資料の活字翻刻、本学国際日本学シンポジウムでの「〈日本〉表象の交差—ジャポニズムの文学と音楽」のコーディネイトと、フランスで明治期に刊行された仏訳和歌集の分析。

また、江戸時代に出版された、源氏物語研究書『源氏作例秘訣』の活字本刊行のための作業を行った（刊行そのものは翌年度）。また、2006年に物故した研究者川平ひとし氏の遺稿をまとめて刊行するに際しての解題を執筆した（刊行は翌年度）。

◆教育内容 / Educational Pursuits

【学部】

「日本文学概説」においては、「どのように書かれているか」「事実と虚構」などというテーマで講義した。「日本古典文学論基礎演習」では、古典文学を研究するための諸方法について実習を指導した。「日本古典文学史論」では中世文学の諸相について、「日本古典文学論特殊研究」では中世文学の中から一見すると奇妙な形態に見える諸作品について講義した。「日本古典文学論演習」では『新撰菟玖波集』の宗祇の句を輪読した。

【大学院】

「西行物語」を素材に、前期・後期に分けて有名人の業績が説話化されていく過程、また度重なる増益による諸本の多様化について考察した。

【高大連携】

附属高校での国語の講義を3回行った。また、「選択基礎」の授業を担当した。

◆研究計画

この年度は科学研究費を得た最初の年だったので、国内諸機関に蔵される写本類の調査と複写物の収集、関連文献の購入を重点的に行ったが、それらの読解・分析をこれから行う予定である。日本語アクセント史に関する文献はかなり購入したので、論文・口頭発表などを絡めつつ、その理論と実際について修得していきたい。2008年度には国語学関係の研究会での口頭発表、兎恵関係資料の翻刻、兎恵歌学に関する分析の論文、また江戸時代後期の上方面における歌壇動向に関する資料の翻刻を予定している。

同時に、アクセント史から派生する問題として、催馬楽や早歌などの、譜本が残っている歌謡文学について、譜から詞章の内容分析への新たな方法を立てられないかどうかを検討したい。音韻論との関わりも当然出てくるので、それに関する文献も収集する必要がある。また、幕末・明治期の和歌に関する資料収集は継続しているので、これに関する共同研究などは考えられるかもしれない。